

さいたま市公民館運営審議会第10回会議 議事録

1 開催日時

令和元年5月28日(火) 午前10時00分から11時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 7階 講座室1・2

3 出席者

〈委員：12名〉

- ① 山中 冴子 委員長
- ② 山田 玲子 副委員長
- ③ 石田 玲子 委員
- ④ 碓井 麻由美 委員
- ⑤ 加藤 正晴 委員
- ⑥ 金今 義則 委員
- ⑦ 久保木 央 委員
- ⑧ 島田 正次 委員
- ⑨ 寺田 道子 委員
- ⑩ 中澤 輝夫 委員
- ⑪ 堀杉 幸子 委員
- ⑫ 山崎 秀雄 委員

〈拠点公民館職員：10名〉

- | | |
|----------------|-------|
| ① 西区 指扇公民館長 | 森田 隆之 |
| ② 北区 大砂土公民館長 | 山本 修一 |
| ③ 大宮区 桜木公民館長 | 桑原 健司 |
| ④ 見沼区 大砂土東公民館長 | 柳 潤子 |
| ⑤ 中央区 鈴谷公民館長 | 掛川 雅世 |
| ⑥ 桜区 田島公民館長 | 押田 龍彦 |
| ⑦ 浦和区 岸町公民館長 | 星野 務 |
| ⑧ 南区 文蔵公民館長 | 芳賀 善久 |
| ⑨ 緑区 大古里公民館長 | 島村 光一 |
| ⑩ 岩槻区 岩槻本丸公民館長 | 宮崎 通夫 |

〈事務局：7名〉

生涯学習総合センター

- | | |
|----------|-------|
| ① 館長 | 吉田 治士 |
| ② 参事兼副館長 | 中村 和哉 |

- | | |
|--------------|-------|
| ③ 管理係長 | 小高 一晃 |
| ④ 主幹兼事業・企画係長 | 荻原 唯史 |
| ⑤ 事業・企画係主任 | 石渡 洋祐 |
| ⑥ 社会教育指導員 | 伏見 浩美 |
| ⑦ 社会教育指導員 | 最首 紀子 |

4 欠席者名

〈委員：2名〉

- ① 小池 茂子 委員
- ② 山崎 栄慈 委員

5 議題

- (1) 第9期公民館運営審議会答申「特色ある公民館事業について」の素案について

6 配布資料

- (1) 本日の会議次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第10回会議出席者名簿
- (3) さいたま市公民館運営審議会第10回会議席次表
- (4) さいたま市公民館運営審議会第9回会議議事録（案）
- (5) さいたま市公民館運営審議会
「特色ある公民館事業のあり方について」答申（素案）
- (6) 「職員意見交換会まとめ及び事例発表した事業報告書」

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

審議冒頭、前回（さいたま市公民館運営審議会第9回会議）の議事録について、承認を経て議事に入った。

議題1の第9期公民館運営審議会答申「特色ある公民館事業について」の素案について事務局より説明した。

<p>山中委員長</p>	<p>事務局の方からご説明を頂きました。全体で作成頂いたものを、1ページから7ページまでですが、お見通し頂ければと思います。説明にありました通り、はじめには、この答申、なぜ皆で特色ある公民館事業を審議しなければいけないのかというところから書かれていて、運営事項は現状の課題というところなんです。佐伯前委員長が、ファシリテーターをして下さった意見交換会の事も、この2ページ目、3ページ目に入れて頂いてあります。意見交換会は非常に興味深く、色々な意見、実態が聞かれた訳ですけども、課題がある中で各館、一生懸命、創意工夫を凝らしてやっつけらっしゃるといって結論としてそこから何を導き出せるかという展開になっていると思います。3ページ目以降は先程の事例という事で、各館が工夫されている事を、書いて頂いていますが、事例は大きく3つの柱で整理されております。4ページ目の(1)、まず1つ目の柱ですが、片柳公民館の取り組み・日進公民館の取り組みも、地域づくり支援という柱でまとめています。5ページ目になりますと、地域との連携という事で、また2つの公民館の事業が出ておまして、事例集もありますので、思い出していただければと思います。6ページ目、学びの循環とゆるやかな繋がりをはぐくむというのは内野公民館ですが、ここはちょっと独自性が際立っておりまして、最初の1つ目、2つ目の柱は複数の公民館の事例をまとめて説明していますが、ここでは内野公民館のみの話をしております。この(3)のタイトルというのでしょうか、学びの循環とゆるやかな繋がりをはぐくむという言葉も、事務局の方にご苦労いただきながら、内野の取り組みをどう説明できるのか。一応今のところ、このように名付けて頂いていますが、内野型と言うんでしょうか、ご説明を頂いております。あととはご説明でもあり、それぞれの柱だての中で、イメージ図を作っているんですが、イメージ図が分かりやすいかどうか、こういうふうにしたらいいのではないかと等々ご意見いただきたいと思っております。事例の特徴(1)、(2)、(3)のタイトルを視覚的に表現できているかどうかをご確認頂きたいと思っております。6ページの下イメージ図につきましては、内野公民館がどの事業もこうやっているのか、不明な部分もあり、一応音楽でつなげるコミュニティ事業のイメージ図となっていますが、学びの循環とゆるやかな繋がりをはぐくむというイメージと連動しているかどうかをご確認頂きたいという所になります。7ページのイメージ図については、どういうイメージ・内容を図に落とし込んでいただいたかご説明して頂いてもよろしいですか。7ページ目の真ん中の3つですね。</p>
<p>石渡事業・企画係主任</p>	<p>ご質問ありました7ページのイメージ図につきましては、その上の文中にあります、公民館が地域のファシリテーター役としてという所をイメージしたものでございます。公民館が地域団体、地域住民に対して、様々な働きかけを行いまして、地域団体、地域住民の考えを引き出し、まず、同</p>

	<p>じスタートラインに立ってもらおうというファシリテーター役を公民館が行い、そこから出てきた地域課題を一つの地域の大きな課題として、全員同じ目線に立ってもらおう。そして、その地域の課題を解決するために、地域の人達が一丸となって、課題解決に取り組んでいく。その中で、公民館はファシリテーター役であるという所を示したイメージ図になります。</p>
山中委員長	<p>そうすると、事例は(1)、(2)、(3)と柱立てされていますが、それを総括したような、そこからすべての事例から読み取れるような、大事な所をイメージとして示していただいているという感じでよろしいですか。</p>
石渡事業・企画係主任	<p>そうですね。</p>
山中委員長	<p>委員の皆さまにはそのようにご確認頂ければと思います。事例を3本の柱で整理して頂いていますが、それぞれに共通して言える事として、公民館が地域のファシリテーター役として機能し、地域コミュニティの活性化につながっているという事を示す、というものになります。事務局の方々には大変ご苦勞頂いておりますが、ご確認を頂きまして、すでに記載頂いている所のご意見をまずは頂きたいと思います。その後7ページ以降の、公民館と地域のつながりについてもご意見を頂くのがよろしいのではないかなと思います。今記載頂いていることについてのご質問、ご意見等ありましたら、お出しいただきたいと思っておりますけれども、基本的な姿勢としましては、特色のある事業という時にすでにある公民館が蓄積させてきたものに、もう一回光を当てながら、再度価値付けてとっていくようなことになっています。いかがでしょうか。お気づきの点等ございましたら。</p>
中澤委員	<p>一ついいですか。6ページ目のイメージが、コラボレーションというふうに書いてありますが、私はどっちかというとコンソーシアムの方がいいのではないかという感じがしますが、いかがでしょうかね。というのは、今埼玉県でも大学とのコンソーシアム事業やっていますね、そういう意味で、団体との共同事業という形でやるのであるならば、そちらの方を取り入れる中で、お互いに協力関係にあるという事を、どちらがイニシアチブとるという意味じゃなくして、いわゆる共同事業的な意味合いで、こういうもので地域との連携を保つっていうのがいいのではないかという感じがします。それから、もう一点、前から私の発言の中でも言っていた事ですが、公民館さん独自でいろいろなことをやって、繋がりとかを考えようとしていますが、行政の中において公民館が、やはり各局との間での連携ですか、そういうものがなされていかないと、公民館独自だけでは、やりにくい部分が出てくるのではないかという感じがします。例えば、今子ども未来局というのがありますね。そこで、ノーバディパーフェクトという子育て支援のセミナーをやっていますが、これに類した子育て支援教育なんていうものは、公民館さんが大いに出来るものですが、そこに役所としてのマターが働いて、支援局のものだからという事で、公民館から外されてし</p>

	<p>まうとかこういう問題になってくるかと思います。だから、そういう意味では、組織間において、行政間においても、同じ連携を保つということが必要ではないか。その大きな例が、今国でも考えている事ですが、内閣府で、ソサエティ5.05という認識に立っている訳ですね。いわゆる情報・知識をお互い共有しあってより良い社会を作り上げていこうというこの考え方が行政の中に満ちてこなきゃいけない。その先例を作る意味で、ぜひ子ども局さんと公民館さんが協議しあって、1つの事業を成しとげていく。例えば、子ども支援教育というものを公民館を会場としてやる。そうすれば外部のお金を使わなくても済むわけですね。そんな意味でも、うまい方法を考えられるのではないかなという気がしますね。ぜひ組織全体としても、そういう地域とのつながり、組織とのつながり、これはイメージで言うならば、企業社会なんかという地域という問題がありますが、公民館さんの中においても全体としての行政のつながりをつける中で、お互いに効果の上がる活動というものを考えられる。どうもマター意識の強い行政の中において、これをやってはいけない、俺たちの分野じゃないという事が強すぎると思います。その辺を少し考えて頂ければと思います。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>今2点ご指摘頂いたと思いますが、1つは6ページ目の1番上の図のコラボという言葉はどう考えるかという事だと思います。コラボレーションというよりは、コンソーシアムですか、共同事業的なちょっと一步踏み込んだような観点があるのではないかというご指摘と理解しました。2点目は行政の関係各所との連携について、特に子育てを例にご指摘頂いたと思います。この辺りは事務局としては何かご回答頂く事ありますか。特に行政の事は、何かお話しできることはありますか。</p>
<p>荻原主幹兼事業・企画係長</p>	<p>はい。ただ今のご質問にお答えいたします。ただ今ご質問頂きました行政の中での他局との連携につきましては、昨今他局との連携という事では、色々な形で連携の方向性として行っているところはあります。子育ての支援ですと、具体的に今はさいたま市の場合は、親子学習事業というものをやっております。そこで子育て支援局さんの方に広報の相互協力という事で、未来局さんの方通じまして、地域の保健センターさんの保健師さんが、各家庭を巡回して健康診断的なものをやったりする。その時に子育て中の保護者の方に色々な子育て情報を伝達しています。その中で公民館においては親の学習事業というものをやっていますよというチラシを通じて、お知らせをして、公民館に来ていただいて、親の学習事業とは公民館に来ていただいて、親が日頃の悩みなどをお話しして頂いて、共感して頂いてという事などをやっております。シニア層の方々に対しては、福祉課と連携しまして、各公民館の介護予防事業などもやっておりますが、今ご指摘頂きました通りに他の部署との連携というのは、今後も市全体としてやっていく形でいろいろ検討していきたいと思っています。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>この後、皆さんにご審議頂く7ページ目の空白になっている部分3番目</p>

	<p>が総括にあたるという事ですので、この公民館と地域とのつながりを二支えにしてもらうためにも、行政のつながり、各部署のつながりを踏まえつつ、より模索していくような提言をしていくということによろしいでしょうか。貴重なご意見だと思います。戻ってしまいますが、コラボという事についても、個人的にはおそらくまとめた所に入るのかと思います。この6ページ目の上の図は(2)の地域との連携による2事例を踏まえたイメージ図という事を考えると、この2事例で共同事業というところまで表現できるかどうかちょっと難しいのかなという印象を持っております。皆さんのご意見如何ですけれども、コラボという言葉は変えた方がいいかもしれないですが、コラボのイメージ自体がちょっと曖昧かもしれませんね。いわゆるコラボが、共同事業的なところまで発展するかどうか、発展しなければいけないのかとなると、それはこれから審議していただく空白の、総括の部分で入れていく事個人的には理解しました。その点に関わってでもぜひご意見、質問等頂だい出来ればと思います。</p>
<p>島田委員</p>	<p>今、委員長が言ったコラボですね、連携とか、公民館の連携色々イメージ図、ほとんど同じような方向性だと思いますが、答申としては、こういうイメージになるのかなと思っておりますが、現状として公民館の今、立つ位置がちょっと違っているのではないかと、これまでになるのは非常にすごい脱皮が必要かなと、イメージ的に思っています。今、公民館の共催講演が教育限定っていうのは、ほとんどの利用者団体が若い人の育児とか色々やっていますが、スタッフ的に人数、組織的に、言葉は悪いのですが講演共催とは名前が先立てでそれがイメージ的に強いので、これが将来的にはこういうなるべきでしょうが、中々脱皮するには時間がかかって、答申としては将来像で言うとも悪くはないのですが、その現状をどこまで引っ張っていけるかというのが、私携わってね、非常にあります。それで公民館の意見を聞く7ページ、各地域団体・地域住民の考え方を引き出すって言いますが、公民館の連絡会など年に1回だけであって、公民館の連絡を聞いて、事業聞いていると、色々やって事業あげて行っているのですが、果たして地域の議論の中にゼロから公民館と議論できるものがあるのかって言うと、ちょっとまだ公民館というイメージが、ちょっと遠いなあと思っています。公民館は昔、地域の人達だけが使うような、昔の高齢者っていうかそういうイメージがまだ残っているということ。公民館法で色々あるかと思いますが公民館っていうのも少し名前をこう横文字みたいな垢ぬけた名前にして…若い人引き付けるには必要なかと思っております。公民館っていうのは、どうも昔の村とか地域の建物感もうその辺も公民館法とか色々あるのか分かりませんが、イメージとしてそういうのも欲しいなと思いましたがね。</p>
<p>久保木委員</p>	<p>ちょっと今の話に関連しますが、この7ページですね、最後のまとめということで、非常にハイレベルな内容で全面的に賛成ですけれども、ここ</p>

	<p>でファシリテーターって言葉がありますよね。このファシリテーターっていわゆるまとめ役だと思うのですが、今の現実の組織を見た時に、多分これやるのは公民館長だと思います。ですが、地区の公民館長さんがこの役割を負うには資質的に、立場的に、あるいは時間的に大変な負荷がかかるのではないかと思います。この図では地区団体以下5つの箱がありますけれども、この団体、もしくは組織の共通の地域の課題っていう事になりますと、ただ生涯学習の想像の範疇を超えた色々な問題が出てくると思います。そういったものに対してかなり造詣の深い方でないとまとめ役としては出来ないと思いますし。もう1つは、今現状では公民館長の在任期間は長くて3年代わっている訳ですね。そうすると1番私達が理解して欲しいのが、地域の立場で申しますと、まず地域をよんで欲しいっていうのかな、例えば、団体なり人なりですね、そういった事の関係者の、極端な事を言うと各団体の長の力関係とかですね、あるいは友好的であるかどうかとかですね、非常にデリケートな問題が出てくる。そういった事を理解して頂くのに、1年や2年で理解できる訳ではないし、そういう立場でもってファシリテーターっていうのは素直に言わせてもらえれば「おこがましい」感じがします。これは感想ですけども、内容的には7ページそのものは大賛成ですが、現実としてかなり難しいのではないかというふうに思います。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>今、頂いたいくつかのご意見で、まずはその図ですね、委員の皆さんにお尋ねしますが、5ページ目の上の図と6ページ目の上の図が必要でしょうか。で、これだけ大きな言葉を使えるのか無理して作らなくてもいい。このイメージ図、この2つですね、5ページ目、6ページ目、2つの図が、もし、ないとしても特段、影響はないかもしれません。コラボもそうですが、定義しにくい言葉を図に入れ込まなければいけないという、かえって苦しくなって、各事例からも導き出したはずの図だけでも、この大きい言葉が各自に返していけるのか。事例のところイメージ図を入れていくのは無理があるかもしれないですね。内野型はこれでいいか分かりませんが、5ページ目、6ページ目の上については、無理して入れなくてもいいでしょうか。いかがでしょうか。</p>
<p>石田委員</p>	<p>図が付いていると分かりやすいです。まず先に目の行くのは図の方なので、ここからどういうふうに行くのか、あえてその図の中の言葉に太文字で書いていると、そこが重要なのかなと、そこに重視してしまうところがあるだからこそ、いっそなくてもいい事がそこに何も書いてなくて矢印だけでもいいかなとは思いますが。こちらの5ページの方も、呼び込む、地域に出向くという言葉をおざわざ入れなくても、矢印だけで示してみてもいいのかなと。何も図がない状態で字だけだと本当に頭に入らないので。それともう1つ7ページの図が、事例を元にしたまとめであることから、まとめという言葉が前についてもいいのかな。</p>

	<p>ざいまして、皆さまの話に出るようになってもいいかもしれません。</p>
山中委員長	<p>図があった方が分かりやすいというご意見もごございますので、ちょっと今後検討していきますか。この図をどうするか。残すか、残さないか。残す方向でちょっと作成しなおしてみてもいいと思います。</p>
荻原主幹兼事業企画係長	<p>預からせて頂いた事例をあえて移したイメージ図とするならば、というところで表現していきたいと思います。</p>
山中委員長	<p>今いろいろご意見が出ましたこのイメージ図、5ページ目、6ページ目の地域支援と地域連携の図二つについては、今頂いたご意見をもとに、修正を試みて頂いて、再度ご提案頂いてもよろしいですか。では皆さま、内野公民館の図はいかがですか。内野公民館の6ページ目、7ページ目の図でファシリテーターという言葉も先程ご意見ありましたが、分かるようで、分からない気がいたしますね。</p>
山崎秀雄委員	<p>この7ページの図で、諮問が特色ある公民館事業のあり方についてという事に対しての5つの事例をまとめたものですが、前にもちょっと話したけど、この図は、以前ここで若者と地域を繋げるための公民館の役割というところで、話し合ったわけですけど、その位置づけにはこの表が欲しかったなど逆に今思うぐらい。この公民館の役割、地域での役割という事を示すのであれば、非常に前より簡潔で分かりやすい気はしましたが、ただ今回の諮問である特色のある公民館事業という事だと、これでどこに特色を見出しているのだろう。よくよく、私なりに考えたのは、ファシリテーションという言葉が妥当かどうか分かりませんが、このファシリテーターになる前に、その地域での特色ですとか、ニーズとか、その発掘というのがこの図の前であって、それをもとに関係各団体組織が集まって、意見集約する。そこに公民館の役割を持つというような話になれば、諮問に近づくというか、答えになるかという気がしましたので、プラスアルファにこの前に入れた方がいいのではないかなと、この図では感じました。</p>
山中委員長	<p>そうですね。特色ある公民館事業でございましたね。役割としては、理解はできるけれども、答申内容の特色あるという部分がどうここに反映されるかと確かに距離があるような気がしますね。ファシリテーターとはという事にも絡むのでしょうけれども、ファシリテートするためには、まず何をすべきなのかという所が、今回の内容にはとりわけ重要ではないかと。上手く取り込めるかと。これはイメージ図になるのかは分かりませんが、文面としてはもうちょっと必要かもしれませんね。ご指摘ありがとうございます。</p>
金今委員	<p>この上の段の文章で書いてあるところに、ファシリテーターという言葉はありますが、ここは結構分かりやすく書いてあると思います。地域団体や、地域住民が主体となって、地域コミュニティが活性化するように、中立的な対場からその活動の支援を行うようにしている。これをやっていく事によって、公民館の特色が出てくると思います。その地域にはその地域</p>

	<p>の特色とか、課題があるわけですから、それにどのように公民館が関わっていけるかというのを考えてやっていく事によって、特色が出てくると思います。ここに書いてあることはすごくいい言葉が書いてあるんですけど、この図になってファシリテーターって言葉が最初のいろんな団体の所に矢印がむいているので、それにちょっと引っ張られるかなって感じがしました。</p>
山中委員長	<p>文面にはすでに盛り込まれているという事ですね。それがちょっと分かりにくいかもしれず、さらに図になる事でイメージが引っ張られるところの難しさについてのご指摘だというふうに思います。</p>
山田委員	<p>ちょっと戻りますが、さっきコラボって言葉についても、やっぱり本文に書いてある言葉に「地域との連携による事例」という言葉があるので、本文とその図の言葉は一致させた方が良くと思います。個人的なイメージだと今の7ページの図っていうのは単発で終わるのではなくてなんかぐるぐると循環するようなイメージ。目的地があってこうじゃなくて、また次に生かされているそういうようなイメージを持ちました。それをうまく表せるといい気がします。</p>
山中委員長	<p>本文と図の中の言葉を一致させるといって、内野公民館の取り組みのどのあたりを、ここでは反映させているかが分かりにくい。この図自体は先程のご指摘にもありましたけれども、特色ある公民館事業のあり方についてというテーマに関わる何を表そうとするのかということを取り返らなければいけないとの印象も持ちました。</p>
碓井委員	<p>内野公民館のロビーコンサートの実行委員長さんを知っているんですけども、何年もやっていて、改良をたくさんして、改善、改善っていう所で、お話し合いをして、やってきて、優れたものになったって事で、コラボレーションということなので、矢印だけでもいいのかもしれないし、その地域で交流しながら、作りあげていった。何年もかかったってところがあって、内野公民館については、コラボレーションって事が適切だと思います。</p>
山中委員長	<p>内野公民館の方ではコラボレーションのような事が大切だという事ですね。</p>
碓井委員	<p>そうですね。共同事業として作り上げましょうという前提で、構成していったのではなくって、改善、改善でまとまりが良くなっていったと思うんです。</p>
山中委員長	<p>そういうプロセスですね。そこをどう書くかですかね。確かに、事例をまとめて頂いていますが、背景、現状、成果という3つの点ですね。事例をまとめて頂いていますが、そのプロセスがないと言えないというか、作りあげていったんだ、まとめていったんだ、それが、コラボレーションとして形作られていったという事は、書かれてははいませんか。</p>
碓井委員	<p>はい。ここはゆるやかな繋がりという言葉の中だと思います。</p>

<p>山中委員長</p>	<p>なるほど。内野公民館の事例については、内野公民館ピンポイントなので、事例を再度見て、ゆるやかなという意味合いを検討しましょう。そのほかの事例、(1)、(2)については、プロセスをどう扱うかというところでしょうか。事例報告頂いたこと以上のことを盛り込むというのは、ちょっと難しいかもしれないですけども、内野公民館については、そのあたりも書けたらいいでしょうか。ここはピンポイントですからね。しかも、まとめのところで、内野型について説明することになると思うんですよね。もちろんどの公民館もがんばっていらっしゃるんですけども、注目に値するという展開になるのではないのでしょうか。</p>
<p>加藤委員</p>	<p>先程から、委員長さんは内野公民館について聞きたいということですが、内野公民館っていうのは政令都市になりましてね、初めて内野地区というのが出来たのですよ。その中で、大宮地区は公民館を中心にして活動拠点としていた訳です。その公民館が内野地区にはなかったのも、その公民館建設については、地域にそれなりに関わった人たちの話し合いのもとに、得心しまして、さいたま市は箱を作らないという事で、背景がございます。そうじゃなくて、公民館は地域の一つの文化の伝統であるよという事を常に思っていましたから、ぜひ作って欲しいというので、あらゆる手をつくしまして、市議員も動員しましてやっとできた公民館です。ですから、それを期待している人が地域に多かったわけですよ。たまたま、その時に指扇公民館におられた方が、内野の方に派遣して頂きまして、その派遣された方が音楽に堪能な方であったんで、自分の身近なところから取り組んだわけですね。これが地域の小中学校に波及されまして、中学校で合唱部だ、それから吹奏楽部だと、こういうあるものを、発表する場所を公民館に設置したという事もあります。そういう事で、やはり理解者が仲間となって、これだけ盛り上げたのは大変立派かなと思っています。先程から皆さんがお話しているように、地域との公民館との繋がりをどう図ろうかというのは、やっぱりこの上にあるイメージですね。企業というのは地域に住んでいる人が、そこに興味を持ってもらうと同時に資金面でもいろんな面で協力してもらえないかなと思って、それが自治会とか、学校とか、PTAとか、個人っていうのは、それらの資格を持った人ですね。お花とか、お茶とか、それから音楽に興味のある人が、一同に会して公民館を支えているのは内野公民館でもあると思います。そういう意味で、大変、努力の結果がこういう内野公民館っていうものを盛り上げてくれたなあと思っています。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>事例のページは確かにもうちょっと加筆があってもいいかなという気が致しますね。更に、7ページ目の3番の公民館と地域とのつながりに関して関わってのご発言とも思うので、こちらの方にも議論シフトさせて頂きたいと思います。</p>
<p>石田委員</p>	<p>ファシリテーターをする面で今回の内野のお話を聞いて、なるほどこれ</p>

	<p>がファシリテーターなんだという感じがしました。そのように今後の公民館になっていくようでしたらうまくまわっていくと思う。こちらのイメージ、イメージ図よりも7ページの方のイメージ図で、内野さんに関することは出来てるのかもしれない。</p>
山中委員長	<p>なるほど、7ページ目の図がどういうふうに刷新出来るかで、他の図にも影響がある可能性についてのご意見出すが、いろいろ特色がある事例を反映させてどのような事が、全体的に描けるか、それによって前のページの各事例の柱ごとの図がどうなるか、いるのかいないのかも含め、この7ページ目の再検討が必要なんじゃないでしょうか。最後の方3の公民館と地域とのつながりについて、ご意見、頂だい出来ればと思います。今の内野の件、各事例をご存知の地域の事ですか、公民館の事とか是非いろいろと出して頂きながらご発言頂ければと思います。</p>
中澤委員	<p>1つご質問ですが、方針というのはもっとビジュアルな事出来ないんですか。ビジュアルにならないのですか。例えば事例の中に写真を入れてもいいのではないですか。</p>
山中委員長	<p>どうですか。</p>
中澤委員	<p>それから現状の課題なんて、いろいろ書いてあるようですけども、①②をですね、はっきりと分かるように書いてあげた方のほうが、どうしても人間文章っていうのは読めないですよ、意外にね。だから、編集方法をちょっと変えてもらってね、箇条書きに①などを1個だけ書いてその次に②と、要するに1個ずつやると、割と問題点が把握出来るし、それから活動事例についても、ここに写真が1個入るだけで、相当違うのですよ。例えば、ロビーコンサートの状況がパッと写ってくればね、それがビジュアルになってくるわけですから、そうするとそれを絵で保管出来る訳ですね。ですから、あまり文章にこだわって、文章面でこだわって文章でガチャガチャ並べるよりも、今の時代というのはビジュアルなので、そういう面も少し考えてもらいたいと思います。それからもう1つは、私読んでいて、これどこ行くか、公民館の現状の課題とか、そういうのもよろしいのですが地域づくりの支援、これはいろいろ事例ですよ。その次にくるのが、もうすぐ公民館と地域とのつながりについてという事で、ここに初めてタイトルとして特色あるっていうのが出てくるのですかね。よくわからないですけども、もう少し前の方で現状の課題というところで、こういう事を書いてあります。その次には事例研究と来て、我々がどういう形で答申を受けたかということで、特色ある公民館の事を答申の内容として書いて、諮問の内容として書いて頂いて、我々の委員会はそれに基づき内野さんであるとか、それぞれの公民館の事例研究を行ったり、それからファシリテーターの指導を受けたりという、そういう事例をあげる中で、段々と結論に結び付いていくというね、そういう少しストーリーを組み替えたらいかがかなと思います。最後に要するに私が期待したい事</p>

	<p>は、どういう事かっていうと、要するに今後の特色ある公民館の活動として、例えば具体的な例としてね、こういうような事をやっていこうではないかというような、ある程度具体的な事を、事例研究に基づいて我々が導き出したいろいろ論議した事があると思いますが、そういう事を書いていくと、答申の結論に持っていくという形が、なんかベターじゃないかなという気が私はするんですね。ここまで来ると事例研究以外はまだ具体例は何もないのですよね。ですから、その辺のところもやっぱり今後どうするかっていう具体例を我々でしっかりと考えていかなきゃいけないという事だと思います。</p>
山中委員長	<p>1点目はビジュアルの工夫ですね。写真を使う、または文章のところを箇条書きにする表記の仕方のご意見を頂戴したと思います。2つ目は全体の流れですけれども、現状と課題の問題。はじめにがあって、現状と課題ですね、2ページ以降続きますが、もっと特色ある公民館事業のあり方についてというところ、答申内容についてもうちちょっとダイレクトに</p>
中澤委員	<p>そうです、ダイレクトに。</p>
山中委員長	<p>挟ませたほうがいいのかという事ですね。確かに特色ある公民館事業って読み進めるとどこにいくのだろう？となるので、先程の7ページ目の図のところのご意見にでも重なるかと思えます。全体のストーリー、流れを見直す必要があるのではないかというご意見。更に全体の流れに関わって、最終的なところではある程度、体制のある提案をしていけばいいんじゃないかと、その提案自体はこれまでの審議で各委員さんから、割と出ているのではないかと。もう1回そのあたりを整理していけるといいのではというご意見と思いました。もう3番は、タイトル自体も再考する必要があるかもしれません。その他いかがでしょうか。具体性のある提言、提案も、これまでいろいろな機会に出されていたと思うんですが、改めてでも構いませんので、ご意見頂戴できればと思います。基本的な姿勢は最初にお話し致しましたけれども、新しい何かを花火のようにあげてくださいという事ではないです。今あるものを使って、また既に積み重ねられている価値あるものが各公民館でもあるだろうとの再考。是非、ご意見を様々、頂戴出来ればと思うんですけれども。</p>
加藤委員	<p>提言は現状でね、現状を踏まえて作られたものだと思いますが、やっぱり公民館というものは10の拠点公民館があって、あと公民館がある、地域別の公民館が形ありますけれども、その公民館が、建物が同一のものであるか、使いやすいような形で出来た公民館であるか歴史的な事から言って、そういうような加味しなくても、公民館がどうして必要かというものが基でつくられた公民館であるんですけれども、今後はねやっぱり、あの実はね内野公民館は音楽をやるクラブをする上で、そういう部屋がきちんと出来ているわけです。例えば老人会やらなんかで会食やる時も、皆、年寄りの会食の場があるんだけど、それがいつもちがうところから持ってい</p>

	<p>くんじゃなくて、その隣に調理室があって、裏からボンボンボン出来る様な。ある公民館で聞いたんですけど、上に食堂があって、広場が下にあるので、料理をずっと運んで持っていく、そういう使いにくい公民館もあるという事なんで、やっぱり今後は、さいたま市がお金あるかどうかは別としても、前提として公民館がある程度使いやすいような公民館にしていく事が地域との接触度も利用価値も増えていくんじゃないかという事で、ここにはないけれども、そういう事も一応念頭に入れて公民館のあり方について検討する必要があるんじゃないかと、こう思います。</p>
山中委員長	<p>ありがとうございます。とても重要と思います。これが大事だと言っても出来ません、やりにくいですというところは、とても大きな壁だと思いますので、施設、設備の使いやすさ</p>
寺田委員	<p>特色あるっていう事で、もしかしたら違うかもしれませんが、さいたま市の特徴というか、さいたま市というのはよそから入って来られる方、結構多いと思うんですね。私、生涯学習相談会っていうのをやってまして、時々引っ越してきたばかりで活動したいんですけど、分からないので教えてくださいっていう方が結構いらっしゃるんですね。それは割と年齢の高い方が多いのですが、中には子育て中のお母さんとか、あとは若い方もいらして、地域とつながりたいが分からないのと、いらっしゃるんですよ。そういう方たちが公民館活動に参加したいんだけどどうしていいのか分からないって言われる、そういう事で来られますが、今活動として公民館はすごく本当にいろんな事をやってらして、面白い事がたくさんあるなど、私も参加したいなと思ってるんですけど、ただそれを探す手立てが分からない。どこの公民館に行ったらいいか分からないって言われるんですね。なので、そういう方たちが参加しやすいような事が出来ないのかなっていうふうに思っています。特色ある活動とはちょっと違うかも分からないんですけど、そういった事も考えて頂いたらいいと思います。</p>
山中委員長	<p>新しく入って来られる方が多い。そのあたりも考えておかなければならない気がいたします。まず、そこを繋がないという事ですよね。</p>
金今委員	<p>この2ページ目、3ページ目の所に、特色ある公民館をめざしてで、現状と課題っていう題になっていますが、ここよく読むと、特色ある公民館について、上手くまとめられてるんじゃないかなっていう感じがしました。2ページ目の下の方に、各公民館が特色ある事業を展開するには、地域の特性や住民ニーズが的確に捉えているか確認する事が必須である。それで、ちょっと下に行きますと、この意見交換会において出された意見のうち、今後の地域の特性や住民ニーズに根差した事業の展開のヒントになると考える。次のページの上に行くと、次に、「事業を行う上での工夫点については」と工夫されてる事が書かれています。下の方に真ん中ぐらいで、「各館の魅力を見つめなおし、特色ある公民館づくりを通じた人づくり地域づくりを行う事が重要であるといえよう。」最後にまとめが書いてあり</p>

	<p>ますけれども、これが特色ある公民館の一つの提案になるとも思います。これを少しわかりやすく、現状と課題っていう形ではなくて、話し合っただけの結果のところ、うまく生かしていくと、特色ある公民館ということが分かりやすくなってくると思います。</p>
山中委員長	<p>前段部分で、この1の現状と課題の中身をちょっと再構成いたしますかね。このタイトルがどこまで文面とあっているか、現状と課題というと広くてなんでも入りそうな感じですけども、より具体的なタイトルにする。先程から出ているご意見と調整かなと思いますが、こんなことを言いたいけど、もしくは、盛り込まれているんだけど、それが伝わっていないのかもしれないかもしれません。それをより分かりやすく、場所変えるとか、色変えるとか、章の名前を変えるとかなんか印象が変わる、読みやすくなるかなという気がいたします。</p>
石田委員	<p>公民館の職員の方はどう思っているのかなと思いました。現状どんな問題があって、年数2、3年で変わるっていう事に対して、どういうふうにかんがわれているのか、人数が今のままで大丈夫だと思われるのかとか、そういう率直なご意見が伺えてないので…聞いてみたいなと思いました。</p>
山中委員長	<p>意見交換会では、事業については聞かれましたけど、そもそも働き方とか、そこに係わることについて確かに聞きできていません。実際特色ある事業をやるとなると…そのあたりは何か事務局として把握している情報はありますか。それはちょっとまとめのところで入れられるといいですかね。基本的な事ですけど。重要なご意見だと思います。先程の施設・設備もそうです。</p>
中村参事兼副館長	<p>すいません。施設面も含めて、内野公民館って非常に新しい公民館で、ある意味先程からお話しいただいた通り、設備整っておりまして、施設面でいくと各館大きさも違ったり、ある設備も違ったり、そういった意味で条件がみんな違う部分がある中で、特色のある公民館っていうのをどうやっていくかという一つの課題目標があります。施設面は長い目で見ると、いずれは改築され新しくなるという事はあるんですが、やはりこういったご時世ですので、なかなかそれが、すぐ済むものではないという認識ではあります。また、現場の声っていう事で、以前委員長の話にもありました現場の職員も含めてお話があった中で、現場がいろいろ考えている課題等も出てますので、そういった声も含めて、思い描くことは簡単なんですけど、なかなか現状はどうなのっていうところも、各委員さんの方からもご提案としては盛り込む事はあると思いますので、そういった所をちょっと反映するような形で、考えさせていただきたいと思います。よろしくお祈りします。</p>
山中委員長	<p>その辺も審議会も忘れておりません。ありがとうございます。次回にまた、刷新して頂いたものをここに持って頂きたいと思います。</p>

山崎委員	<p>先程、中澤委員さんが話していて、なるほどなと思いましたが、最終的には、やはりこの特色ある公民館事業という事であれば、何かを例示しなきゃならないと思うんですけど、その時に、これを読んでいく中で、公民館のあり方をこうした方がいい、ああした方がいいっていうのは外して、その前の1つの目的のためのツール探し、何を特色とするかっていうのはそのツール探しだと思うのですよ。そうすると、ここで使われるてる言葉であれば、各公民館のある地域の伝統文化、もしくは歴史の継承ですとか、多世代交流の機会を作るとか、なかなか、歴史もどこにもあるものではないですから、そういうものの資源がない公民館もあるかと思いますが、そういうところには多世代の交流の新たな仕組みを作るとか、そういうものもない所であれば、先程子育ての話もありましたけど、子育ての多い地域の公民館であれば、そこには徹底的な子育ての方が集まって、定期的にできるいろいろなお話し合いなり、活動が出来る。それは、その地区を超えて、地域全域、そこまでは出来ないかもしれませんが、管轄を超えたそういう特色ある事業を、歴史的な資源とかがない所は、そういう事も取り組めるのではないかと思うので、例えば3つぐらい出したんですけど、そういう例示を入れていくという、それを一つのツールとして、地域での公民館の役割ファシリテートしていくためのツール探しをまずするという事を入れていって、そこから広げていく方が、分かりやすくなるのではないかなと思いましたが。</p>
山中委員長	<p>今出している事例(1)、(2)、(3)で分けて頂いている柱立てはツールという観点でまとまっている訳ではないですね。</p>
山崎秀雄委員	<p>後付けで申し訳ないんですが。</p>
山中委員長	<p>とんでもないです。ツールという観点で、これらの事例をまた説明しなす事は可能かもしれませんね。内野公民館こそコラボだと思っていますが。事例をどう説明するかという事が確かに問われていると思うんですね。事実がば一っと書かれている。引っ掛かりがあまりないというのもあるんですよ。(1)、(2)、(3)の柱は変わらなくても、中身を的確にし、プロセス面でのツールを探す、ツール探しを入れていけるかもしれませんね。また、それはこの3番の総括にも大いに関わってくると思います。</p>
山崎秀雄委員	<p>3ページの上の方に、最後に段落ですけど、公民館の資源についてあがった意見で、①館の施設で、②近隣施設ってなっていますが、そのかっこの中が地区社協ですとか、地区民児協が入っているので、施設ってことがちょっとひっかかって、確か佐伯さんがやった時には、この項目でやったんだけど、その説明の中に確か地域の組織だとか、環境だとかっていうものも含めてっていうブレインストーミングの話しかけてたような気がするんで、施設っていうのを何か違う言葉に、組織なり、環境なり、何か違う言葉にして頂ければ、社協って入っているのでもっとその事をお願いしたいと思います。</p>

山中委員長	<p>色々な次元のものが、混ざっているので整理しなければいけないですね。言葉の整理を全体的にやっていくというところでしょうか。ありがとうございます。ご意見よろしいでしょうか。では今日頂いたご意見を踏まえまして、事務局の方にすみませんが改良していただきたい。いろいろな貴重なご意見を頂戴いたしました。どれも重要だと思っておりますので、また次回更新して頂いたものをこちらでもんでいただきたいというふうに思います。次回の審議会では、本日のご意見をもとにさらに磨きをかけて報告させていただくという事になっております。皆さま、ありがとうございます。次回またもんでいただきます。よろしくお願いいたします。</p>
荻原主幹兼事業・企画係長	<p>事務局の方からすいません。1点ですね。本日、審議いろいろご意見いただきまして、まず、今日頂きましたご意見をもとに、こちらで刷新を早めに作らせていただきまして、次の審議会が7月でございますので、7月までの間にいったんこちらで刷新したものは郵送で、また案として送らせて頂き、それをご覧になって頂いた上で、各委員さんから先程お話を山崎委員の方から頂きました通り、最後のまとめのところの例示的なものに繋げるために、特色ある公民館事業についての意見、あるいは事例のものになるようなものを意見表という形で、一度やり取りをさせて頂ければなというところ。それをまた頂きまして、7月の審議会までにそれを組み入れたものを第2の案という形でまとめまして、また見て頂いて、そして、審議をして頂ければなというふうに思っております。</p>
山中委員長	<p>皆さんよろしくお願いいたします。次回7月ですけど、時間がないので、皆さまよろしくお願いいたします。よろしいですか。</p>
山田委員	<p>3ページ目の半分の下から、4分の1くらいのところで、以上の事から公民館職員と地域とが、その地域のことについて共有、理解し合うっていうところがちょっとなんかこう行き着く先というか</p>
山中委員長	<p>多分いろんな事が、いろんなところで盛り込まれて散っていくんですね。それをうまくまとめなおしていくということですかね。ありがとうございます。では、本日の議題これで終わりますが、その他に何か委員の皆さまございますか。よろしいでしょうか。それでは事務局から何かありますでしょうか。</p>

次回は、令和元年7月23日（火）午前10時00分より生涯学習総合センター7階講座室1・2にて開催することを確認した。

1 1 閉会